

死んでる暇なし

《特別対談》

受障、入院、自宅へ たくさんの人に支えてもらい、上手に生きていく

井上吉郎 × 池添 素

◆2006年（奈良大会後）の
8月12日

池添 前日は元気だったけれど、あの日は朝からしんどかった？

井上 二日酔いかと思ってた。

池添 朝6時くらいに散歩に出かけたけど、その時からフラフラしていて、吐きそうやからすぐに帰ってきた。寝たらそのうち治ると気楽に考えていたけれど、これはほんとけないと思って病院に行った。どんどん悪くなっていっていき、そして呼吸が止まった。病棟にエマージェンシーコールが鳴って、お医者さんが集まり救命措置。一命はとりとめたけれど、ここでは手に負えないと、別の病院へ搬送され、緊急手術して何とか乗り越えられた。でも長くは同じ病院にいられないから、リハビリが進んでいると岡山の病院を紹介され、京都を離れての闘病生活となりました。



9年前のこと、今の生活、活動のことまで、それぞれの内にある思いを語っていただきました。

◆伝わらない思いと
とびきりの誕生日プレゼント

池添 週一回は岡山通い。カニユールをしているからしゃべれない。伝わらないから怒ってティッシュペーパーが箱ごと飛んできた。

井上 岡山で知っている人は誰もいない。ものすごく孤立感があった。発語はできない、食べられない、動けない。何のために自分は生きているのか、生かされているのかとの疑問に答えが見つからなかった。入院して一カ月以上経ったときに、夜中にベッドで首をくくって自殺を図った。幸か不幸かその結び目が外れて命は助かった。せつかく助かった命やから、それ以来再び自殺を考えたことはなかった。

でも、生活は結局寝たきりしかないわけ。本も新聞も読めない。唯一の楽しみは、あなたが京都から来てくれる日や時間だけ。あなたが思っている以上に僕にとっては励ましとなっていた。顔見るだけでうれしかった。「神様」やと思った。あなたが帰ってしまうとさみしかったね。

池添 あんなにイライラしていたあなたが、さみしいとは、知りませんでした。

井上 さみしかったですよ。

池添 わざわざ来ているのに、「なんでもっと私にやさしくできないのだろうか」と…。

井上 思ってたやろな。

池添 行くときは会いたいと思って行くけど、あたられるからつらくて、いつも帰り道泣いてた。私も自分のことで精一杯やった。そのあと京都の病院に帰ってきた。

井上 2007年11月7日。家に帰ってきたんや。

池添 家に戻ってきた日は心細かった、今でも思い出す。パイナップがうまくいかないし、胃腸注入のやり方は教えてもらうけど、自分が全部やるとなると不安。お風呂の介助も最初は全部私がしていた。一昨年の誕生日やったかな？ 一人でお風呂に入ってくれた。井上 あなたへのバースデープレゼント。誕生日にやろうと思った。お風呂の介助はすごい負担やと思っ。

池添 あの修羅場の出来事を、覚えてることも、気持ちも、立場がちがうと全然ちがうね。

◆迷惑ってなんだ

池添 あなたが私に迷惑をかけていることが申し訳ないと思っけると、最近知りました。井上 うん、ずーっとあるな。足ひっぱりになっっているな。

池添 私はそんな風に全然思ってない。私は、あなたがそう思うだろうから、そう思わせないように介護しようと心を砕いてきたのに、そういう風に言われるものすごくつらい。それで伝わらないものかしさで、よくけんかする。

ない。そう思われないように振る舞ってきたつもりやけど。

井上 客観的にはそうでしょ。でも、あなたを見てみんな「ごころうさんですね」と言う。僕に「ごころうさん」とは誰も言わない。池添 そうやね。だから困ることがある。タクシード、運転手さんが、「奥さんも大変ですね」と言うけど返事が難しい。「はい」と言ったら相手に失礼、「いいえ」と言ったら嘘になるし。

井上 介助する人、介助される人。それは時に限らず全部そうでしょ。

池添 介護者を気遣うと、介護されている人が傷つくことに敏感になり、さらっと流せない自分がいます。

井上 張り紙しとくか。

池添 「がんばってます」ってな(笑)

◆お互いの魅力、尊敬するところ

井上 あなたは「とうさつりよく」がある。

池添 盗み撮りの盗撮？

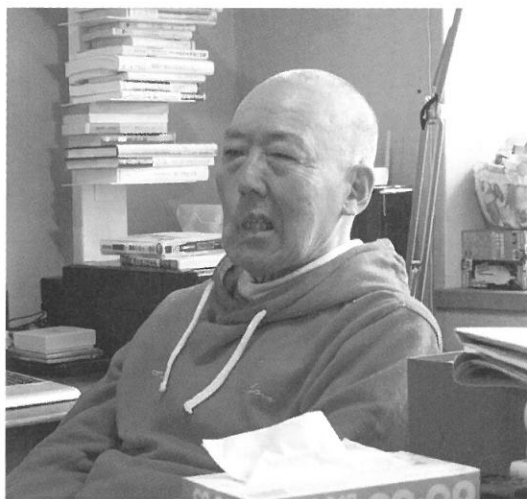
井上 透察力。向こうを見通す力。僕は「受験秀才」やったから覚える力や知識はあったけど、考える力はあまりなかった。あなたは考える力がすごい。発想が自由。

池添 できないことを補って、二人でやっと一人前やね。

井上 あなたと会って45年くらい経つけども、覚える力も大事やと思っけど、考える力の方が大事やと思っ。だから、すごく尊敬するな。

池添 私は今をよりよく生きるために考える。その延長線上で、療育や発達相談でいま

いのうえ きちろう／1945年生まれ。京都大学農学部を卒業し、京都府生協連事務理事などを務める。これまで産直運動、福祉やまちづくりなど多様な運動にかかわってきた。



井上 言いあいにもなる。言語障害で自分の思いを正確に伝えられない、それがつらい。僕が寡黙な人間やったら別やけど、僕は割合饒舌やったから…。

池添 自分の一番得意としていたことができなくなったことはつらいね。

井上 いま無言宣言やっっているでしょ。もしも、僕が自由に発言できたなら、無言宣言はしないで、マイク持っしてしゃべると思っ。マヒがなかったらビラ撒くと思っ。無言宣言は、僕のもっている能力いっぱい宣言方法。でも、無言宣言なんて自己満足でしょ。ビラも撒かない、マイクも持たない。

池添 それがあなたの最大ならそれでいいと私は思っけど、自分が納得できないのね。

子どもがどうしてほしいのかなということを考える。将来の自立のためとか、こんな力が次の課題とか知っておくことは必要だけど、子どものいまやってほしいことを考えて働きかけると、子どもは自分で伸びていくと思っ。この頃感じることでけど、あなたはいつも相手のことを考えてるんじゃないかな。こうしたらきつと喜ぶだろうとか。自分のことをもっと思えたらどうなのかと思っことがある。自分がどうしたいのか、あんまり考えたことがないのでは。だから、そこが障害者になったら自分と向き合わないといけなくて、余計につらいところだと思っ。でも、自分と向き合うチャンスをもたらしたのはとてもよかったことやと私は思っけれど。

◆みんなに助けられるから支え合える

井上 能力、人柄、人生経験、見ているもの、読んでいる本もちがうし、別人格だけど、あなたがいるから自分の運動が、人生が成り立っている感じがすごくする。それはね、障害をうけていなくてもそうだと思っ。

池添 毎日の歩行訓練が象徴的かも。二人で歩いて訓練するとき、あなたは私の肩が必要、私は杖の力を借りて歩いている。私も、杖がないとあなたを支えられないから、一人で立っているわけではない。いろんな人に助けてもらっ、ちよつとずっ上手に生きられるようになってる感じがする。

私は、世話になってると思ってほしく



井上 大阪の病院にいたとき、病室から歩行器を押して歩く人を見たときに、「あー、あんな生活うらやましいな」と思っ、と同時に寝たきりの自分を見つめざるを得ない。社会に向けて一人で働きかける能力を奪われたわけやから、思いが他者に向かつてではなく、自己に向かったときにものすごくギャップあったな。

池添 そこやと思っ。

井上 僕は編集者と生協と市長候補者、大きく分けて人生で三つの経験をしたけれど、どれも、軸は自分のためじゃなくて人のため。ところが障害者になってみると、そんなことはおまえには求めてへんという声が聞こえてくる。おまえは自分のことも満足にできないのに、人のしあわせのためになにができるのか。心のなかでそう思っときに、そやそや、もう一回自分を見つめ直さなあかんっていうことに思っ至った。

池添 私は自分と向き合わざるを得なくなっ た井上吉郎さんのほうが好きやな。昔は傲慢とは言われないけど…。

井上 えらそうやっったもんな。

池添 そう、人のためにやってあげてるって、すごいえらそうやっったかも。いまは、自己洞察して、自分のできること考えてやっっている。いろいろ本読んで、自分のために栄養つけるっていいなと思っ。

編集部 最後にお互い聞きたいことがあれば。

池添 今日の予定とか明日の予定ぐらいやね。

井上 それが大事やな。

池添 ヘルパーさんが来るのか、私が注入するのか、家にいるのかいないのかは大問題。